

先生は私が大学入学四年前に亡くなられているので面識はないが、渋谷駅前ハチ公の銅像の主としてあまりにも有名であり、また大学に農業土木専修科を創設された方だとも聞かされていた。後日「区画整理」の道を志した私は帝都復興に力を尽くされた先生の門下生の諸先輩、河北一郎氏（明治39年第一回耕地整理講習修了者）や同級生の稻光恃氏、大場信続氏等の諸師からは親しく先生のご功績を承ったこともあり、また、同門の田中清彦氏（大正5年卒・内務省都市計画東京地方委員会技師）には特に教えを乞うたものだが、齊しく先生を区画整理の始祖と仰いでおられたのを記憶している。

○ 耕地整理法誕生と実施 農商務省の樋田魯一氏が欧州出張後の明治17年、耕地区画整理案を起草。明治20年には、独逸に留学した酒匂常明博士が土地区画整理を研究、帰国後、「土地整理規約事例」その他を記述し、同26年には「土地整理論」を発刊。同31年には、博士の部下月田藤三郎氏と協力して耕地整理法の立案・制定に尽力された。同法は、明治33年施行された。この年、上野英三郎氏は、農科大学講師嘱託となった酒匂博士より耕地整理の実施に関し激励をうけた上野氏は、爾後20年間ただ一人で専門技術員養成官を引き受けられた。この間

の受講生は工学部土木工学科を含めて3千名を突破している。

○ 関東大震災と復興事業 大正12年、関東大震災による復興事業計画に当たり、区画整理についての上野博士多年の造詣、蘊蓄が貴ばれ、先生の門下生河北一郎氏をはじめ幾多の人材を送り込み、都市計画に耕地整理法準用の途を拓いたのは空前のことである。学者として専門技術者の育成はもとより行政的手腕を兼ね備えた先達の士であったと云う。

○ エピソードと終焉のとき 平素頑健の方でなかった博士は、大正14年突如、大学で発病され、54才で永眠された。農業工学科の創設と駒場教室の本郷移転を力説された情熱と功績は永く東大史に残るであろう。「涙痕餘録」によると、博士は、芝居、音曲など多趣味で、とりわけ建築と造庭は玄人裸足の造詣を持ち、渋谷の大向にあった自宅の台所の設計や造庭の妙は見る者驚嘆したと云う。秋田から贈られた後の忠犬ハチ公の秘話や、いつも懷に温めておられたというカナリヤへの愛情は、子供の無かった博士のこまやかな情愛の発露として永く人の心を打つ逸話として語りつがれるであろう。

